

平成29年度第1回東胆振圏域地域医療構想調整会議病院部会

開催日時	平成29年12月12日(火) 18:30~20:00
開催場所	北海道胆振総合振興局保健環境部苫小牧地域保健室2階会議室
会議次第	
<p>1 開 会</p> <p>2 あいさつ 北海道胆振総合振興局保健環境部苫小牧地域保健室長</p> <p>3 議 事</p> <p>(1) 新たな「北海道医療計画」(仮称)について</p> <p>ア 基準病床数の設定について</p> <p>イ 介護保険、在宅医療等の新たなサービス必要量について</p> <p>ウ 今後のスケジュールについて</p> <p>(2) 「地域医療構想」について</p> <p>ア 地域医療構想の推進管理について</p> <p>① 地域医療構想推進シートの作成について</p> <p>② 公的医療機関等2015プランについて</p> <p>③ 地域医療構想の推進に関する医療機関アンケート調査について</p> <p>4 意見交換</p> <p>5 閉 会</p>	
主 な 意 見	
<p>■ 示された数字は、厚生労働省から示されたものか、道独自に計算して出したものか。 (事務局) 最初の推計数については、国から示されたものだが、按分の方法については、どの調査で按分するのか等道で選択している。</p> <p>■ 昨年で議論して決まった必要病床数は、国のスタンスとしては地域で決めなさい。しかし基準病床数は縛るという、これ以上にはできませんよと言う、そういう理解の仕方でよろしいのでしょうか。 (事務局) 国の考えとしては、基準病床数は今現在、必要病床数は、2025年という考えで、通常ですと医療計画の見直しの時に、基準病床数を算定していますが、必要病床数が不足している地域については、毎年基準病床数を見直していこうという考えになっています。そこで必要病床数が足りないという圏域については、どこかの時点で基準病床数がオーバーからアンダーになってくると推測されます。</p> <p>■ 介護医療院の詳細が解らないところで、推計しなければならないということで、非常に難しいかと思うのですが、例えば介護療養型病床から介護医療院に転換はあくまで推計、今の状況ではどこも手を上げられない中でこれだけ転換するという希望的観測で、実際介護医療院になるのが少なかった場合、病床数を毎年見直しの中で吸収していくという考えなのか。 (事務局) 在宅については、数的な部分も含め、3年後に見直すということになっています。意向調査を見ても解るとおり、ほとんどの施設は未定となっている。介護療養型病床数については、経過措置がなくなるので、全て転換されるだろうという数で出していますので、状況によっては見直さなければならないと思います。</p>	

- 在宅に関して、在宅医療の数に対して訪問医師、訪問看護の数等、現状の数でやっていこうという考えで出している数字ですか。

在宅を診る医師や訪問看護がなければ在宅医療は難しい。現状で在宅をやっている医師は苫小牧はそんなにいない、今の現状の数でこれだけをやっけていこうと考えているわけですか

(事務局)

在宅医療の推計数がこれだけですが訪問医師、訪問看護の数がこれしかない。どうしたらいいのか協議しなさいと、なかなか難しい面はあると思いますが、このような場を使って協議しなさいと国ではいつている。

- 地域医療構想推進シートは全国共通なのか、北海道独自のものなのか。

(事務局)

北海道独自のもの。

- 地域には、公立病院でも公的病院でもない病院が中核的役割を果たしているところがある。新公立病院改革プラン、公的医療機関等2025プランを中心に推進シートを作成しても、地域を正確に反映しないのではなか。

(事務局)

3つのプラン等だけで作成するのではなく、3つのプランを参考に他の部分を取組む等いろいろな意見を聞きながら作成していく。

- シートの4の(3)在宅医療の確保対策のスケジュールの例を見ると在宅医療グループ診療運営事業の推進とか在宅医療を実施する診療所の設置促進とか書いてありますが、だれがどうやってこれを促進するのでしょうか。

いつ決めて、誰が具体的にやるのでしょうか。

(事務局)

在宅医療の確保対策は非常に難しく、例示で書いてある事業は道で実施しています補助金の一例を記載しています。逆にそれぐらいしか記載する事項はないだろうということで、このような例示になっています。

苫小牧市医師会がやっている在宅委員会では後方病床の確保にスポットを当てて取組を進めて行こうと検討されています。そういった内容を取り組み内容とします。

今の推計は医療資源充実を抜きにして、現状受けている人に将来の人口で推計しているもので、そのニーズに対応していくためには、人材確保等が必要となってきますので、推進シートの中に取り組む必要があります。

この圏域でどうニーズに答えていくかの観点でこのシートを作成していくことになると思いますので、ぜひいろいろな観点でご意見いただきますよう進めていきたいと思ひます。

- 連携シートに書けるところだけ書いてくださいという話も聞いています。現時点でわかるところだけでいいですと、書けないところはあえてかかないでもよろしいのでしょうか。

(事務局)

連携シートに空欄になるところはあると思ひます。全部埋めることは今の段階では難しいと思ひます。従って書けるところはしっかり書いて、それに基づいて進めて行くこととなります。事務局がシートの案を作成している中で聞きたい部分があれば、個別なり全体なりに照会したいと思ひます。